



恩二小だより

<http://hachioji-school.ed.jp/ogt2e/>

令和7年(2025年)

11月28日

八王子市立恩方第二小学校

042-651-3700

第9号

子どもの無限の可能性と自尊感情 ～音楽会を通して～

校長 有賀 康 美

暦の上では立冬を過ぎ初冬、学校の桜は葉を落としイチョウの葉も散り始めてきました。これから本格的に寒い冬がやってきます。市内ではインフルエンザが猛威を振っており、本校でも感染してしまった子どももいますが、まだかかっていない子どもたちには、感染対策をしっかりと、何とかかからずに学期末まで元気に休まず登校してほしいと思っています。

さて、先日、体育館がコンサートホールになった音楽会が開かれました。子どもたち一人一人が気持ちを込めて歌ったり演奏したりして音楽を奏でました。音楽会では、日頃の音楽の学習成果を発表することを通して、音楽への興味や関心をさらに高め、音楽を愛好すること、豊かな情操を身に付けること、さらに学年全体で一つの曲を作り上げる喜びを感じさせるとともに、自主性、協調性、創造性を養ったり、表現力を高めたりすることを目標に取り組んできました。子どもたちは前日まで、「上手に歌おう」「きれいな音や声を出そう」「リズムを合わせよう」と一生懸命練習していました。当日の本番は、程よい緊張感の中、思い切って歌ったり、演奏したりしていました。発表が終わって会場からの拍手の中、どの子どもも、やりきった、楽しかったというとても満足そうな顔をしていました。ご来場くださった保護者の皆様にも頑張っていた様子が十分伝わったのではないかと思います。音楽や美術、演劇などの芸術作品をじっくり聴いたり観たりすることを鑑賞といいます。鑑賞とは楽曲やつくられた作品、演技から、そのよさや作曲者や演奏者、作者や演者などの思いを感じ、心の目を開いてよさを味わうことです。下手だとか、色や形が悪いとか、出来が悪いとか欠点を指摘することではありません。私は今回の音楽会で、1年生から6年生まで全員の心や気持ち、歌や演奏に取り組む姿勢、合わせるまでの苦労や努力、一生懸命に取り組んだ様子を感じ取り、味わうことができました。全ての子どもが自分の心や気持ちを歌や演奏で一生懸命表現していました。発表の出来栄はともかく、その心や気持ちをご来場の皆様にも味わっていただけたと思っています。また、その子なりのよさや努力を認め励ましていただいたと思っています。

歌や楽器が苦手という子どももいます。しかし、今苦手でも将来はわかりません。子どもは様々な可能性を秘めています。苦手だからこそ逆に努力し、その分野で功績をあげ有名になった人はたくさんいます。絵や工作が嫌いだったのにプロの芸術家になった人、算数が嫌い成績も悪かったのに数学者になった人など・・・。そのような人たちのことを考えると今回の音楽会での発表がきっかけとなり、子どもたちの中から将来著名な歌手や演奏家、作曲家などの音楽家、ミュージシャンが出るかもしれません。子どもは認められ励まされることで自分の可能性に気づき、再認識し自信をもちます。これは「自尊感情」(自己肯定感とも言われます)を高めることになります。自尊感情とは、自分自身を価値ある者だと感じる感覚です。自分自身を好きだと感じる、自分を大切に思える気持ちのことです。自信と言っても良いでしょう。単に人より優れているという感覚とは違います。誰でも長所があれば短所もあります。できることもあればできないこともあります。それら全てを含んで、自分がかけがえのない存在だと感じるのが自尊感情です。国際調査で日本の子どもの自尊感情が低いと言われ、自尊感情を高めることが必要だと言われています。なぜかという、自尊感情が高い子どもは、学習場面で困難に出会っても粘り強く努力するが、自尊感情が低い子どもはすぐにあきらめてしまう傾向があると言われているからです。また、対人関係において、自尊感情の高い子どもは、他人からの賞賛や批判にさほど左右されず感情が安定しているが、自尊感情の低い子どもは、ほめられるとその相手が良い人に思え、けなされると悪い人に思えるようなところがあり、感情的にも不安定な傾向があると言われているからです。そして自尊感情が高いと次への意欲のエネルギーになるからです。私は、今回の音楽会が子どもの自尊感情を高めるよい機会だったと思います。ぜひご家庭でお子さんの努力や頑張りを具体的に褒めていただければと思います。また、学校も家庭も今回の音楽会のような、子どもが自分の思いや願いを表現する場を経験させ、感性や一生懸命取り組んだ努力を認め、それを通して本人が自分のよさや可能性を発見する手助けをしなければいけないと思っています。

2学期もあと3週間余りです。9月からの子どもたちの頑張りと成長を認め励まし、褒めながらしっかり学習と生活のまとめをしっかりしていきたいと思っています。よろしくお願いします。

～2学期の大きな行事を振り返って～

道徳授業地区公開講座 （保護者・地域の方46名来校）

10月18日(土)の道徳授業地区公開講座に多くの方のご参観をありがとうございました。

道徳授業では、発達段階に応じた資料、クラスの実態に応じた資料を基に、担任が子どもたちをこのように導いていきたいという願いで授業を展開しました。

道徳授業を通して、心を耕し、徳目である心情や実践意欲等を培い、態度を養っていく。すぐに結果は現れないものですが、積み重ねていくことで道徳性を育てていきます。



1年生「こぐまのらっぱ」



2年生「学きゅうえんのさつまいも」



3年生「かしたつもり×もらったつもり」



4年生「ぼくらだってオーケストラ」



5年生「遊園地のできごとから」



6年生「修学旅行の夜」

＜講演会の様子＞ （保護者15名参加）

3校時の講演会にご出席いただき、ありがとうございました。

講師の先生からは、分かりやすいお話をしていただきました。

体は立派な大人だけれど、心が育っていない「アダルトチルドレン」という大人が多い話から始まりました。学校や家庭の役割は、「道場」であって、心を磨き、成長させる場である。過保護や過干渉では、「自立」は育たない。心の教育は環境が大きく左右される。まず、大人が「やって見せて、言って聞かせる」教育をすることが大事であるとおっしゃっていました。

道徳には、一人一人が当たり前を守っていかなければならない徳目＝「あたり前道徳」と他者のために働きかける徳目＝「ありがとう道徳」があるというお話をされていました。

まず、学校では、「ありがとう道徳」を広げるような資料に多く触れ、道徳以外の授業や行事等の取り組み方にも「ありがとう道徳」の意識をさせていくことが大切であること、「失敗を恐れず、その失敗から自ら考え、次に生かす」という学びを繰り返すことで、「自立」が育っていくこと等のお話がありました。



また、家庭では、結果だけ称賛するのではなく、その過程に目を向け、以前より成長した点を褒め、励まし、伸ばして欲しいとの考えを話されていました。

「ありがとう道徳」とは、諺にある「情けは人の為ならず」という言葉が頭に浮かびました。学校と家庭が連携して、体だけでなく、心も立派な大人になるよう「自立」を目指して子育てをしていきましょう。そのためには、まず大人が見本になって子どもたちを導いていきましょう。

音楽会

～さんさんと うたう かなでる 恩楽会～

(保護者・地域の方・来賓87名来校)

11月8日(土)の音楽会に多くの方のご参観をありがとうございました。また、アンケートもたくさん集まり、教員の励みや、次の参考になり、感謝申し上げます。

今回は、児童鑑賞日と保護者鑑賞日を一緒にしましたが、アンケートの声からも賑やかで良かった、観客を含めた全員合唱を子どもたちと対面で歌えて良かった、職員合奏が見られて良かった等、高評価をいただきました。そのほか、低中高の学年の演奏もそれぞれ工夫を凝らした演出になっていて楽しかったとか、2年前と比較してお子さんの成長振りを感ぜられて涙が出るほど嬉しかった等の感想もいただきました。

音楽担当だけでなく、担任も加わり、一緒につくり上げてきた一曲一曲を観ている方に感動を与えられたことは大変嬉しく思いました。

今年はインフルエンザの流行が早まり、開催週は、インフルエンザの児童や体調不良の児童が続出し、開催の延期もぎりぎりまで検討していた始末でした。本番当日は参加できる児童の兆しが見られたので、実施に踏み切りました。今考えると、延期をしていたらもっと実施ができなかっただろうと思いました。保護者の皆様には、ご理解いただきありがとうございました。

写真は、上から低学年、中学年、高学年、観客の様子です。たくさんの観客の中で、子どもたち一人一人が主役となって輝けたこと、音楽会が大盛況だったこと等、大変うれしく思います。



お願い

本校に通学するにあたって、特認校制度が廃止されて随分経ちますが、市教委に確認すると、公共交通機関を使っの通学の条件が出されているようです。

しかし、現状を見ると、学校までの送迎車が後を絶ちません。送迎をしなくてはならない事情のあるお子さんは、学校へ申し出てください。

[illegible]